

郡市医師会長プロフィール

札幌市医師会

上埜光紀先生



平成15年3月1日開催の第94回札幌市医師会定時代議員会において、昭和43年以来35年振りに会長選挙が行われました。現職の島田会長と上埜副会長が立候補され、上埜副会長が選挙の結果選出され、第16代札幌市医師会会長に就任いたしました。

上埜光紀会長は昭和15年2月1日生まれ。昭和39年3月北海道大学医学部を卒業し、昭和40年4月北海道大学医学部耳鼻咽喉科に入局しました。

昭和45年4月同科助手となり、昭和51年4月上埜耳鼻咽喉科医院を開業しております。昭和62年

4月自ら立候補し、札幌市医師会理事となり、平成9年4月より副会長に推挙され就任し、平成15年4月札幌市医師会会長に選出されました。その他の役職として、札幌市耳鼻咽喉科医会会長・北海道耳鼻咽喉科医会会長等を歴任されております。

上埜新会長は調整型の人と言われておりますが、決してそれだけではなく、大変強いリーダーシップを発揮します。今後の医師会の方向性や計画を明確に役員や職員に伝え、また若い理事や会員の言葉にも耳を傾ける度量の大きな人とも言えます。一言で会長を表すとすれば「大変記憶力の良い人」で、ご挨拶の時には（一応原稿は用意しているようですが）、原稿を読むのではなく年月日の記憶からその内容まで極めて正確で立て板に水の如くお話しし、その能力にはいつも驚嘆させられます。

（札幌市医師会 政策部部长 藤原秀俊）

石狩医師会

上西 仁先生



本年3月、石狩医師会定時総会において、満場一致で、第3代会長に上西仁先生が選出されました。先生は、昭和15年の生まれで、昭和34年北大に入学、さらに昭和38年札幌医科大学に入学、昭和44年卒業されました。その後、同大学第一外科に入局し、高山坦三教授、早坂滉教授の下で研鑽を積み、学位取得後、道立紋別病院等の勤務を経て、昭和57年石狩市花川で、上西外科クリニック

を開設し現在に至っています。平成9年から石狩医師会理事、副会長として3期の間、会長を補佐してきました。会務に精通し、渉外能力は抜群です。明朗で温かな人柄により会員、地域住民の信頼も厚く、地域医療を適正に指導しています。

私は、昭和38年以來の同期ですが、学生時代より多方面で（特に試験等）助けられています。スマートで社交ダンスはプロ級です。スポーツ万能でゴルフも相当な腕です。

構造改革の嵐が、医療の分野にも、数多の難問を突きつけている時期の会長就任ですが、実力を十分に発揮し、石狩医師会をリードしていただきたい。全幅の信頼を託し、ご健勝を祈り紹介とさせていただきます。

（石狩医師会 理事 相川 眞）

小樽市医師会

三山雄弘先生



三山雄弘小樽市医師会新会長のプロフィールをご紹介します。先生は小樽市の出身で、順天堂大学を卒業後北大第3内科にて研鑽を積まれ、現在は小樽市の中心部の稲穂1丁目で、三ッ山病院の理事長の任に当たっておられます。先生は小樽市医師会の理事および副会長を長年に渡って立派に務められ、以前より会長候補と目されており、このたび小樽市医師会の17代目の会長に就任されました。

先生は医師会活動以外にも青年会議所の会員であったり、現在はロータリークラブの会員でありますので、異業種の人たちとの交流も盛んで、た

くさんの友人を持っております。先生の飾らない人柄、ユーモアに富んだ巧みな話術、豊富な話題、すぐれた指導力は人を引きつける魅力に富み、周囲には常に笑いが絶えません。小樽パトミントン協会の会長や小樽ヒルトニアクラブの会長等も引き受けておられ、人望の厚さもうかがわれます。

先生の趣味は幅が広く、読書、ゴルフ（HD 13）、電子機器（パソコン、デジカメ、ビデオ）、料理、食べ歩き、ワイン（ボルドーの赤）、旅行（海外旅行は数知れず）等と多岐に渡っております。好奇心が旺盛で、大変物知りな先生です。カラオケも上手です。

三山先生は、このような方ですので、小樽市医師会のリーダーとして最適です。これからしばらくの間は健康に留意されて、小樽市医師会を引っ張っていただけるように、会員一同切にお願い申し上げます。

（文責 大口正樹）

岩見沢市医師会

竹内 守先生



岩見沢市医師会の新しい会長に竹内守先生が平成15年1月27日の臨時総会におきまして満場一致で選出されました。

先生は岩手医大を昭和44年に卒業され、同年4月北大第一内科に入局されました。昭和52年に岩見沢市立病院に医長として着任され、地域医療に貢献されてきました。昭和60年岩見沢市で開業され現在に至っています。その間、医師会活動にも熱心に取り組みられ、平成元年から岩見沢市医師会理事、平成13年からは副会長として前医師会長の得地一久先生の右腕として活躍されてきました。また、市政につきましても岩見沢市公害対策審議

会委員や介護保険事業計画策定等委員会委員をはじめとする多くの役職につかれ、幅広く活躍されております。

先生に抱負をお尋ねしたところ、医療改革の行く末も定まらず、今後も医療界は逆風にさらされるものと思われるが、岩見沢市医師会の伝統である「和の精神」と「衆議尊重」をモットーとして医師会員一丸となって、医師会の発展と地域医療の充実のため全力を尽くすとのお答えをいただきました。

温和でやさしいお人柄の先生は他人の意見を聞く耳を持っておられ、「衆議尊重」の言葉のとおり、民主的な運営を心がけておられ、様々な意見を十分に聞いてから決断されているように見受けられます。先生はそのお人柄と指導力で21世紀の岩見沢市医師会を牽引していただけるものと会員一同期待しております。

（岩見沢市医師会 理事 松本 光博）

深川医師会

大西道祥先生



深川医師会では本年度、大西道祥先生が会長に選出された。会長が一挙に15歳若返った。56歳では若いと言えないが医師会長としては若い。新風が期待できそうである。

先生は当地の旧家の出身で、昭和48年に弘前大学医学部卒業後大学院に入学され、昭和52年に卒業。昭和52～53年黒石厚生病院勤務。昭和53～57年秋田県由利組合総合病院胃腸科科長をされ、昭和57年当地に戻られ現在まで北海道中央病院院長

をされている。

趣味は囲碁4段、ゴルフHD11でどちらもけん味のない本格派である。また深川ロータリークラブの主要メンバーでもある。

若い頃からよく纏め役を頼まれ、深川西高等学校の同窓会長、家裁の調停員、ケアマネジャー連絡会会長、演劇団の会長等を務めておられる。

今後、このような依頼が多くなると思われるが、ご自愛のほどをお願いしたい。

先生は会長就任の挨拶に、患者中心の地域医療に努力すると所信を表明された。人間は元来自己中心な本性が支配的なので、これはかなり困難な課題になりうるだろう。この高邁な理想に向かって会員を指導し、実現を目指していただきたい。

(文責 永井久之)

北見医師会

番場敏行先生



前任の白川久成会長が15年1月27日急逝されたため、副会長であった番場先生が会長代行を務められましたが、4月の定時総会で会長に選出されました。

番場会長は昭和35年北海道大学医学部を卒業され、北大大学院外科系終了学位授与された後、昭和40年より国立札幌病院に勤務、昭和43年より51年まで外科医長を務められました。昭和42年にはロサンゼルス小児病院に留学されています。

昭和51年郷里である北見市にて番場医院を開業され今日に至っています。平成8年より北見医師会副会長を務めてこられました。

医師会以外でも北見ロータリー会員（会長も歴

任）北見体育協会理事その他の分野でも活躍されております。

日常の診療では専門の消化器系を中心に市民の厚い信頼を受けてご盛業中ですが、会長職となると診療には大きな制約を受けることとなりそうで番場先生も大分悩んだかに仄聞しておりました。

しかし、現在の北見医師会の会長には番場先生に務めて頂かなくてはというのが会員の一致した意向です。

番場先生は常に冷静です。常に平常心を保って穏やかに対応する様子は尊敬に値します。これが趣味のゴルフではハンディ8を維持できる要因かと思われます。また、ゴルフのシングルプレーヤーにしては、気楽な酒席でもゴルフ談義に深入りすることはありません。常に謙虚で奥ゆかしいのです。

番場会長はとても健康そうですから今後のご活躍を期待し、お願いいたします。

(文責 副会長 山本栄司)